

## 令和 6 年度 東京都立神代高等学校（定時制課程）学校経営計画

東京都立神代高等学校長 小林 正人

### 1 目指す学校

生徒一人一人の「輝き」を磨く学校として以下の点に留意し、生徒・保護者・職場・地域から信頼される開かれた学校を目指す。

- (1) 本校の教育目標「学び、鍛え、輝け」のもと、生徒一人一人の充実した学校生活を実現するため、個々の生徒の能力や個性に合わせたきめ細かな教育活動を行い、社会の一員として自己実現できる力を育成する。
- (2) 自律的生活習慣を確立し、規律の中で自主的・自律的に行動できる力を育成するとともに、自ら学ぼうとする姿勢を育成する。

### 2 中期的目標と方策

#### (1) 中期的目標

様々な個性や経験をもつ生徒一人一人にとって、学校が「学習と集いの場」となるよう生活指導・学習指導・進路指導をきめ細かく行い、集団生活の中で自己有用感・肯定感を高め、社会の一員として自己実現できる力を育成する。そのために、自律的生活習慣と規範意識を徹底し、自己管理能力を高める。また、学ぶことへの興味・関心を喚起し、基礎学力を定着させる。そして学校行事や部活動等の自主活動を支援し、人間関係形成能力を育成するとともに学校への帰属意識を高め、中途退学率を減少させる。さらに「キャリア教育の全体計画」を実施することを通して、自己の進路を主体的に決定する力を育成する。

#### (2) 中期的目標達成のための方策

##### ① 自律的生活習慣・規範意識の徹底と自主的活動の支援

- ア 授業を大切にしている指導の徹底を目標に、欠席・遅刻の指導や授業規律などについて組織的な指導を行い、落ち着いた学習環境を確保する。
- イ 充実した授業や学校行事への参加の基盤としてホームルームを充実させる。
- ウ 学校行事・ホームルーム活動・部活動において自主的活動を支援し、生徒の帰属意識を高める。
- エ 体罰根絶・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けて全校で取り組む。

##### ② 教育相談機能の充実

- ア 面接指導・個別指導を通年で行い、教職員全体で生徒の情報共有に努め、中学校等外部機関からの情報も得て、不登校や個々の事情を把握する。学期ごとに年間計画の基づく職場・家庭訪問の日を設ける。
- イ 担任、生活指導部、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の連携により不登校及び不登校傾向の生徒に関する情報共有を密に行い、必要に応じて外部機関との連携も含めた個別指導を行う。
- ウ 健康指導、安全指導、栄養・給食指導を推進し、生徒の心身の健康を支えていく。

##### ③ 基礎学力の定着

- ア 年間指導計画の見直しを図り、基礎的な内容を繰り返し指導してその定着を図る。
- イ 学ぶことへの興味・関心を喚起する授業への改善を推進する。
- ウ 教員相互の授業参観（年 2 回以上）を実施し、授業改善や指導方法の研修を実施する。
- エ 漢検等の資格検定を推奨し、目標に向けて学ぶ経験を通して達成感を持たせ、「やればできる」という自己肯定感を育む。

##### ④ キャリア教育の実施

- ア 全ての教育活動にキャリア教育を位置づけ、「自己有用感・肯定感」を育成し、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」に発展させる。

##### ⑤ 地域との連携

- ア ボランティア活動・地域清掃活動等を通して社会貢献の精神を養い、地域への理解と関わりを深める。

##### ⑥ 学校運営における情報の共有とコミュニケーションの拡充

- ア 教職員の個性や能力を生かすとともに、特定の個人に依存するのではなく、組織的な運営の実現に努める。全教職員が学校経営への参画意識を持ち、経営企画室との連携協力を進める。各事業の運営に際して、費用対効果を最大限に配慮し、効率的予算編成・執行・管理を行う。また、都民の信頼を失わないため、服務事故の防止を徹底する。

### 3 今年度の取組目標と方策

#### (1) 教育活動の目標と方策

##### ① 生活指導：自律的生活習慣と規範意識の徹底

- ア 授業規律と生活規律の一体化を図る。授業開始と終了の時間を守り、授業を大切にさせ、「授業は生徒が学ぶ最大の機会」としてこれを保障する。
- イ 教職員全員が共通理解の下で生活指導に取り組み、「いつでも、どこでも、誰でも」対応ができる体制を確立し、いじめ等の問題行動ゼロを目指す。
- ウ 学校が生徒の「学習と集いの場」となるよう、学校生活の基盤としてホームルームを充実させる。
- エ 生徒一人一人が互いに気持ちよく生活できるよう、生徒の自主的な活動を促し、集団生活を営む上での基本的な規則に基づき、生徒同士お互いを理解し相手の立場になって行動できるようにする。
- オ 部活動や学校行事への参加を促し、学校への帰属意識を高めるとともに、責任と自覚ある行動をとることができるようにする。

カ 「身に付けさせる規律・規範」全体計画、生活指導指針に基づく指導を実施し、「マナー9か条」の徹底を図る。

## ② 学習指導：学ぶことへの興味・関心の喚起

ア 社会人として必要な基礎・基本的な学力を確実に身に付けさせる。

イ 提出物、確認テストなどで学習成果を検証し、必要に応じて補習・補講等を行う。

ウ 漢検・数検などの資格試験を奨励し、目標に向けて努力することの大切さと達成感を持たせ、意欲を喚起する。

## ③ 進路指導：計画的な進路指導による生徒の勤労観・社会観の育成

ア 就労指導を1年次から推進し、ハローワークへの相談やパート・アルバイト等を積極的に斡旋し、仕事を通じて生徒個々の状況に応じた就職先や将来の進路について実践的に考えさせる。

イ 個別面談指導や進路ガイダンスをきめ細かく行う。

ウ ハローワーク等外部機関を活用し、進路指導や模擬面接を行う。

## ④ 特別活動・部活動

ア 学校行事や部活動を通して自主的活動を支援・指導し、仲間と協力して最後までやり遂げることを経験させることで、自己有用感・肯定感を育成する。

イ 他国の文化等を学んで多様性を尊重することの大切さを実感することで、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる資質を養うために、オンライン英会話を実施する。

## ⑤ 地域との連携

ア ボランティア活動・清掃活動等において地域に貢献し、生徒の自尊感情を育むとともに、地域から信頼され応援される学校を目指す。

## ⑥ 健康づくり

ア 健康診断の結果を踏まえ、生徒の心身の健康づくりに学校全体で取り組む。

イ 体力テストの結果に基づき、体育における運動量を確保して体力の維持、向上を図る。

ウ スクールカウンセラーと連携し、組織的な教育相談体制を確立する。

エ 教職員全員で給食指導にかかわり、喫食率向上を目指すとともに、給食指導を通して心身の健康と食生活に対する意識を高める。

## ⑦ 募集・広報活動

ア 積極的に中学校等への訪問を行い、本校の特色を伝え入学者選抜における応募者の増加を図る。

イ 適切な広報の時期や内容の検討を行い、訪問の時期や説明資料の充実を図る。

ウ ホームページの内容を充実させ、更新回数の増加を図る。

## ⑧ 学校経営・組織体制

ア 予算執行を効率的に行い、落差金等を有効に活用する。

イ 日常的な施設・設備の点検を通して、不良箇所・危険個所に迅速に対応し、安全を確保する。

ウ 服務事故の根絶及びいじめの未然防止・早期発見・対応等について、校内研修を実施し、全教職員で徹底して取り組む。

エ 業務の精選と効率化を推進するとともに、教職員のライフ・ワークバランスの実現のためにテレワーク等も実施する。

オ 新型コロナウイルス対策として実施してきたオンライン授業について、不登校の生徒への運用等を行うことで、個に応じた指導を徹底する。

## (2) 重点目標と方策

### ① 生徒の主体的活動の支援とホームルーム・部活動・委員会活動等の活性化

【方策】ア 学校行事の出席率の更なる向上を図る。

イ 部活動への加入を促進し、部活動や学校行事などの自主的活動を支援する。

ウ 地域行事や発表会等への参加を促す。

### ② 自ら学ぶ姿勢・意欲の向上と授業改革

【方策】ア 社会人としての基礎・基本的な学力を定着させる。

イ 授業開始・終了時刻を厳守し、授業規律を徹底する。

ウ 教員相互の授業参観や校外研修等を活用し、授業改革・改善を進める。

エ 漢検等の資格検定を推奨し、目標に向けて努力することの大切さと達成感を持たせ、学習意欲を喚起する。

### ③ 個に応じた指導の充実と進路実現

【方策】ア 「個別の支援教育推進委員会」の継続実施等により、多様な生徒についての情報を共有し、外部機関等との連携・協力を推進して、個に応じた指導の一層の充実を図る。

イ 外部機関との連携や生徒との個別面談をよりきめ細かく実施し、進路意識の向上を図るとともに、生徒一人一人の進路実現を目指す。

【数値目標】 ( ) は昨年度

① 学校行事への出席率の増加	60%	(55%)
② 授業に満足する生徒の割合	85%	(80%)
③ 教員間の授業参観	3回	(3回)
④ 授業規律が保たれていると感じる生徒の割合	95%	(90%)
⑤ 進路決定者の割合	90%	(75%)